

『胎動』と『妊婦のこころの変化・産科合併症』との関連についての検討： 母親に寄り添った保健指導をめざして

金澤 由紀子 ●名古屋市立大学 医学部附属西部医療センター 産科病棟 助産師



保健指導をする助産師

1. 背景と目的

胎動は妊娠16週から20週頃になると感じられるようになると言われていた。

しかし、自覚にかなり個人差があり、胎動に対して個々の妊婦がどのような思いを抱いているか十分な研究は行われていない。またそれに対する保健指導は助産師の力量や経験によっており、胎動が起因と思われる妊婦のメンタルヘルスへのケアは十分ではない。

このような状況下、助産師が適切なデータや根拠に基づき、妊婦に寄り添った保健指導をすることは、妊婦が安心して妊娠期を過ごすため、妊婦のメンタルケア、産科合併症などへの予防や早期発見・介入等々に重要である。

本研究は、安全・安心なお産のための妊婦保健指導法を確立するために、妊娠期間中の胎動の位置、種類や頻度と妊娠合併症や胎児異常などの正常から逸脱した病態との関係を明らかにし、助産師による妊婦に寄り添った助産介入や母親教育などの確立に資する。

2. 取り組みの方法

本研究では、妊娠から出産までの期間の妊婦における胎動に関連するこころの変化と、胎動の自覚、時間帯、種類を経時的に調査する。さらに妊婦のカルテ情報から臨床的情報を経時的に収集するとともに、妊婦中のイベント発生(産科合併症など)を前向きに観察する。両者を総合的に解析し、胎動と臨床情報やイベントとの関連などを包括的に検討する。これにより、妊娠期間中の胎動のパ

ターン化、精神的な変化との関連、産科合併症との関連等を明らかにする。当院で分娩予定の妊娠12週以降の妊婦500名を対象とする。

① **質問紙調査**：自記式アンケート調査。質問紙は研究者らが妊娠週数に応じて3種の質問票をオリジナルに作成し、初めての妊婦へ胎動教育時(アンケート①)、胎動を自覚した時(アンケート②)、またはそれ以降(アンケート③)で調査を行う。

② **臨床データの収集**：産科外来初診受診時の問診表や日々の妊婦健診における診療記録、検査データ、分娩時の助産録や診療記録、検査データから収集する。収集内容は基本情報(身長、体重、BMI、既往歴、現病歴)に加え、産科に関連した妊娠経過、不妊治療の有無、妊娠歴、生育歴、家族背景、家庭環境、サポート状況、分娩経過、出生児の診療録などを含める。

③ **イベント発生の観察**：妊娠から出産に至るまでに妊婦と胎児に何らかの異常所見やイベントがなかったかをカルテから遡って情報収集する。

3. 期待される成果

妊娠期の胎動の経時的・精神的変化や胎動と周産期合併症や胎児異常の関係が明らかになり、今後の早期発見による医療やケアのアウトカム向上につながる。妊娠経過における生理的な胎動の頻度や種類の把握が可能になることで、エビデンスに基づいた確かで、質の高い保健指導とその統一化が実現できる。